

次に、2、こども・子育て複合施設について。

新居浜市は、少子高齢化が進む中、子育て支援の充実を総合戦略の基本目標に掲げ、様々な取組を進めています。令和6年4月から設置されたこども家庭センターすまいるステーションは、妊娠期から子育て期間までの伴走型相談支援として、市民から重要な相談、支援の窓口として活用されているところです。

しかし、現在の施設は、市役所内の一部署に限定されており、相談窓口の分散やスペースの不足が指摘される声もあります。

こうした中、庁舎南側にこども・子育て複合施設（仮称）を建設する計画が進められております。2026年度着工、2028年度秋頃の供用開始を目指し、工事費が約20億円を超える大規模事業となっております。この施設は、こども家庭センター、保健センターの母子健康機能、こども発達支援センターを核に、子育てスクエア、多目的会議室、教室などを備え、延べ床面積約2,800平方メートルの3階建てとなる予定です。場所は、休日夜間急患センターを含む敷地で、アクセス良好な市中心部に位置します。この複合施設は、包括的な支援拠点として、妊娠、出産から発達支援、親子交流までを一元的、総合的に提供するものと期待されております。子育て世代の負担軽減と住み続けたいまちづくりに大きく寄与する事業だと私は思います。

そこで、以下の点についてお聞きいたします。

施設の基本設計についてですが、こども家庭センター、保健センター、こども発達支援センターの具体的な機能は何か。

また、子育てスクエアでは、どのような子育て支援の場として予定されているのでしょうか。

障害児支援や独り親家庭への配慮はどのように反映されるのか、お伺いいたします。

設計、建設の進捗状況についてです。

現在、設計委託を進め、2025年度末に取りまとめる予定とお聞きしていますが、子育て当事者、専門家からの意見の反映はされたのでしょうか、お伺いいたします。

施設の利便性についてですが、市庁舎隣接という立地は、利便性が高い一方、駐車場不足の懸念があります。専用駐車場の確保数や周辺道路の渋滞対策などの検討はされているのでしょうか。

また、開館時間や休日対応は働く親のニーズに沿ったものになるのでしょうか、お伺いいたします。

次に、運営体制と人材確保についてです。

施設完成後、保健師、心理士、保育士などの専門スタッフの配置ですが、現在のすまいるステーションの現状体制で運営されるのか、それとも新規採用などで強化されていくのでしょうか。

また、民間連携などの協力も視野に入れているのでしょうか、お伺いいたします。

○議長（田窪秀道） 答弁を求めます。藤田福祉部こども局長。

○福祉部こども局長（藤田恵女）（登壇） こども・子育て複合施設についてお答えいたします。

まず、こども家庭センター、保健センター、こども発達支援センターの具体的な機能についてでございます。

こども家庭センターは、妊産婦や子育て家庭への個別相談を中心に、福祉や母子保健の専門職が連携して、妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援を行います。地域資源との連携を強化し、子育て・家庭支援を実施し、家庭ごとのニーズに応じた支援を実施いたします。

保健センターの母子保健機能につきましては、ポピュレーションアプローチを基本に、妊産婦や子供に対する予防的な健康支援を行います。具体的には、母子健康手帳の交付、妊産婦健診、乳幼児健診、予防接種を通じて地域の健康水準の向上を目指します。

こども発達支援センターの機能といたしましては、発達に課題を持つ子供一人一人に対する個別支援や保護者や支援者へのサポートも提供いたします。早期支援に取り組み、将来の自立を見据えた教育的支援を継続的に実施いたします。

次に、子育てスクエアでの支援の場についてでございます。

子育てスクエアでは、子供と保護者の交流や6か月から3歳未満の一時預かりが可能な子育て広場、広く一般に開放する遊具を備えた子供の遊び場や絵本・読書コーナーなどのほか、多目的に使用できるマルチスペースなどを設けることを検討いたしております。

障害児支援や独り親家庭への配慮につきましては、個別の相談室を複数配置し、相談室までの動線の工夫とプライバシーが守られた環境の中で相談対応を行うことを予定しております。

また、独り親家庭に対しても、育児支援や就労支援など、関係課所との連携を強化したサポートを行ってまいります。

次に、設計、建設の進捗状況について、子育て当事者、専門家からの意見の反映についてでございます。

令和7年7月から8月にかけて、未就学児と小学生の保護者、高校生、子育て支援関係者等314人からワークショップや意見交換を通じて得た実際のニーズに加え、令和6年度以降に実施した子ども・子育て支援に関するアンケート調査等の1,591人の回答者のデータから分析した傾向を反映いたしております。

次に、専用駐車場の確保数や周辺道路の渋滞対策などについてでございます。

駐車場は、市役所利用者との兼用部分を含めて約110台程度確保する予定とし、周辺道路の渋滞対策については、都市再生整備計画に基づき、市役所南側の道路の改良を計画しておりますので、一定の渋滞緩和が期待されるものと考えております。

開館時間や休日対応につきましては、利用者のニーズを踏まえつつ、開館時間の延長の場合に発生する維持管理費等も考慮しながら、今後、検討してまいります。

次に、施設完成後の運営体制と人材確保についてでございます。

運営体制と人材確保につきましては、保健センターの母子保健機能と一体的に運営できるようになることから、連携体制のより一層の強化が可能となると考えております。

民間との連携、協力につきましては、行政が提供するサービスだけでなく、民間団体等による多様な支援が重要と考えております。地域企業や子育て団体、医療機関等との協働を視野に、連携の手法や課題を整理

し、充実した施設づくりに取り組んでまいります。

○議長（田窪秀道） 藤原雅彦議員。

○20番（藤原雅彦）（登壇） どうもありがとうございました。

このこども・子育て複合施設は、恐らく1年前に古川市長が就任されて、そういう話があったと思います。先ほど答弁があったように、今年である程度の形、大体の形が出来上がったかと思います。そういう施設も必要になるという思いはあるんですが、実は一番大きく欠けている点が僕はあったんじゃないかなと思います。それは何かというと、そういう施設を造って、じゃあ具体的に新居浜市の5年後、10年後の出生数、また出生率について、どのように検討されているのか、そういったところがなかったんじゃないかなと思います。2024年の新居浜市の出生数は689名です。前年度から比べたら下がっております。合計特殊出生率は、国、県の平均を上回っているも、これもだんだんだんだん低下傾向にあります。そういった意味で、この施設に対して、今現在、新居浜市の出生数とか合計特殊出生率の検討などをされているのでしょうか。もししているとすれば、お示してください。

○議長（田窪秀道） 答弁を求めます。藤田福祉部こども局長。

○福祉部こども局長（藤田恵女）（登壇） 藤原議員さんの御質問にお答えいたします。

本施設の整備により、合計特殊出生率や出生数をどの程度改善できるかという見込み、具体的な数値目標という御質問かと思えます。

合計特殊出生率や出生数は、婚姻や就労、経済情勢、価値観など多様な要因の影響を受けるものであり、本施設の整備のみを直接的な指標とすることは難しいと考えております。

なお、出生数の目標値につきましては、第六次新居浜市長期総合計画において、令和12年で650人と設定いたしております。

○議長（田窪秀道） 藤原雅彦議員。

○20番（藤原雅彦）（登壇） ありがとうございます。

確かに子育て支援はハード、建物だけではなくて、先ほどの答弁にもありましたように、経済とか雇用とか住環境の総合的対策が一番大事かと思えます。1年前にこの施設が20億円という話を聞きました。それから約1年がたっておりまして、一般的に今人件費高騰、物価・資材高騰、そしてまた今イランのほうで戦争があつて、そういった意味で20億円でできるのかなということに関しては僕はもっと上がるだろうなど。だから、確かに子供が生まれるのは様々な要因があるのは分かるんですが、20億円以上のお金をかけて施設を造るわけですから、これから開設した後、そういう意識を持って運営をしていただきたい。これは要望でございますが、一番大事なのは、やはり子供がどれだけ生まれていくか、これが全ての根本だと思いますので、何とぞよろしく願いいたします。